

核の時代の国際情勢 ～人間の尊厳の観点から考える～

2018年8月28日(火) 13:30～16:30

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

パネリスト



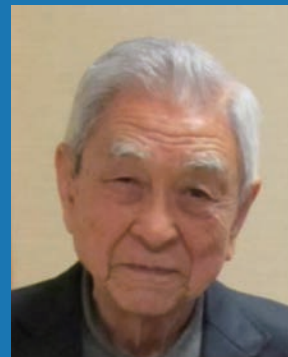
川崎 哲

ピースポート共同代表。核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員。2008年から広島・長崎の被爆者と世界を回る「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」プロジェクトを実施。2009～10年、日豪両政府主導の「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会」でNGOアドバイザーをつとめた。2014年5月、「集団的自衛権問題研究会」を立ちあげ、同代表。著書『核拡散』(岩波新書)で日本平和学会第1回平和研究奨励賞を受賞。雑誌『世界』(岩波書店)をはじめ国内外のメディアに寄稿多数。



キハラハント 愛

東京大学総合文化研究科「人間の安全保障プログラム」付准教授。同グローバル地域研究機構・持続的平和センター副センター長を兼ねる。国際人権法、国連平和活動(特に警察)の専門家。ネパール、東ティモール、スリランカ、インドネシア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、スイス、イギリス、日本など、紛争国を含む各国で勤務。2016年から2017年にかけて、日本の代表として、国連PKO局の国連警察指針作成を行った。



三宅 信雄

1929年2月16日生まれ。広島にて被爆。被爆当時16歳。爆心地より1.8km地点、爆心地へ向かう路面電車の中で被爆。電車内で多くの死傷者が出たが、自身は咄嗟の判断で電車を飛び降りたことにより被害を免れた。

1980年代後半から証言活動を開始。活動は日本国内にとどまらず、アメリカやオランダ、カナダ、イスラエル、サウジアラビアなどでも証言し、在韓被爆者との交流なども積極的に参加。

2007年から2009年には東京都原爆被害者団体協議会の事務局長を務める。

開催日時：8月28日(火) 13:30～16:30

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加費：無料

参加申し込み：下記QRコードからフォームを送信。

アクセス：小田急線参宮橋駅から徒歩7分



シンポジウム概要：

ノーベル平和賞を受賞したICANの活躍により、昨年9月、核兵器禁止条約が制定されたことは記憶に新しい。核兵器の全面廃止と根絶を目的として制定されたこの条約だが、平和的目的での原子力の保有は禁じていない。「平和的目的」とはどの範囲を指し、どのように担保するのだろうか？未来を担う私達学生に何ができるのであろうか？

私達学生は、被爆者の声を後世に伝えていくことができる最後の世代である。戦後73年を迎えるこの夏、改めて「核」を取り巻く問題に向き合い、これからの核時代の国際情勢を三人の登壇者とともに考えていきたい。

本シンポジウムは、核を取り巻く国際情勢に興味のある全ての人が対象です。シンポジウムに先立ち、背景知識の共有から内容を始めますので、知識はまだないが、興味はあるという方でも参加していただけます。

高校生・大学生・社会人、全ての皆様のお越しを心よりお待ちしております。